



8月《研修例会》 8月28日(日曜)

～森で役立つ救急法～ & ロープワーク & チルホールの基本

緑化センターにて、安全をテーマとした研修会を行いました。(参加者 25 名)

午前中は、救急救命士・高橋さん(5 班)に「森で役立つ救急法」を教えていただき、午後からは、元レスキュー隊の秋武さん(5 班)に、実践に活かせる覚えておきたい「ロープワーク」、鎌田さん(2 班)、見勢井さん(1 班)によって「チルホール」の目的及び基本的な使い方を学びました。どの研修も皆さん目を輝かせ真剣そのもの。いざという時のために、これからも繰り返し研修の場を設けて行きたいと思っています。



8 月例会は「安全研修会」。写真は、ロープと木材を使った簡易担架の作成。
《2本の木材の間隔を肩幅より広めに取り、末端を「巻き結び」で結び、2本の木材に「8の字」にロープを巻きつける。》

研修を終えて

山本薫(5 班)

8月の例会は山での作業活動中にもしも…?!の対処方法や安全対策の学習会でした。

午前中は救急とレスキューのプロ高橋さん、秋武さんにより三角巾を使っての止血方法や、

骨折の際の対処方法、ケガ人を運ぶ方法等を学びました。グループになり、仲間の頭や足を三角巾で巻いて結び「ほうほう！」と感触に納得してみたり…意外と三角巾を手にすることが初めての方も多かった様子でした。

午後からはそれぞれのグループに分かれ、ロープワークとチルホールの基本を交代で行いました。「縄の魔術師」? 秋武さんによりロープワークの学習…。山の作業では基本の「もやい結び」がなかなか結べずモヤモヤ…(笑)。ロープワー



「日本手拭いもとても便利です」と、山本 薫さん(左から3人目)



まず初めは三角巾の使い方。講師の高橋さんの説明に皆、聴き入る

クは皆さん補習授業が必要のようです(笑)。

また、色々工夫され、独自の観点からの確に指導して下さる鎌田さん、見勢井さんにより「チルホール」使用時や伐木時の安全対策確認の再認識を…。

一日安全に作業を終えるためには先ず健康であること！仲間との信頼関係の大切さをしっかりと感じた講義となりました。山での活動中にはAEDがありませんが、皆がひとつずつココロに持っています！

A ; あなたの E ; えがおが D ; だいすき

皆がAEDのキモチを持っていたら、笑顔が溢れ楽しい作業の一日が送れます。

「あっ！痛いっ！」ではなくて、「会いたい！」と、皆がいつも笑顔で再会するための大切な安全対策勉強会は、気持ちよい秋風の中とても有意義な学びの時間となりました。ケガや事故の無い活動が続きますように…。



チルホールの操作の基本を説明する鎌田さん(中央)



ブルーシートを使用しての搬送方法を説明

救急法フォローアップ

* 救命講習の講師お二人から、メッセージを頂戴いたしました。講習会の様子とワンポイントも合わせて紹介します ***

『大変有意義な講習会だったと思います。救命講習は色々な所で受けられているかと思いますが、AEDが主で三角巾の使い方など詳しくは受けられていないかと思いますが。安全にゴールはないです。何時いかなる時も、安全を第一にして事に当たらないといい仕事はできません。コツコツとレベルアップして行く事が大切です。』 高橋 清志



レスキューのプロ秋武さん(左)と高橋さん(右)

『救急法を知っているかいないか、ロープワークを知っているかいないかが、命を左右します。研修当日も申し上げましたが、知って損はありません。一度で覚えられるものでもありません。繰り返し、繰り返しが一番です。秋武が活動に参加している時は、ロープを持参しています。知る限りの「縛る」為ではなく、「助ける」、「助かる」為のロープワークを伝授したいと思います。何時でもお声がけを！』 秋武 明



肘部分の三角巾の頂点を絞って結ぶ
 ～三角巾内に腕を収める(ずれ防止)為～



頭の包帯 三角巾(使い方のポイント)

患部に三角巾を少しずらして当て、十字に交差させ患部の反対側に回して本結びで縛る。



三角巾:腕を吊った後、首の後ろで両端を合わせて結ぶ。



*ポイント:負傷した腕を患者に支えて貰うと結び易くなる。



写真左～足部の骨折等に木切れを股間部と大腿部に当て、三角巾又はタオル手ぬぐい等で縛る。



写真右～ファイヤーマンズキャリー患者を肩に担ぎ、手足をつかんで運ぶ。(短時間の移動に使用、長時間は患者に苦痛を与える。)